

就労困難者の雇用創出プロジェクト

近年、就職できない若者、早期に退職する若者が増えているといわれています。総務省「就業構造基本調査」(H24)によると、三重県では就職したくてもできていない若者は11,700人にも上ると報告されています・・・
私たちは、このことを大きな社会課題と捉え、動き出したのです。



2016年2月23日

就労困難者の雇用創出プロジェクト 始動！

発足記念講演会『若者が働き、自立できる社会を目指して』を開催。約50名の方にご参加いただきました。

第1回プロジェクト会議の開催

埼玉大学教授 石阪先生に座長に就任いただき、学識経験者として「広島文化学園大学大学院 教授 岡本先生」「同朋大学専任講師 大橋先生」を。支援団体等として「三重労働局」「三重障害者職業センター」「若者就業サポートステーション・みえ」「三重県自閉症協会四日市ブロック」から、労働団体として「日本労働組合総連合会三重県連合会」「全日本自治団体労働組合三重県本部」から研究員を選出いただき、さらに障害を持つ子の母親にもご参加いただく事でプロジェクトを開始する事が出来ました。



就労困難者の雇用創出プロジェクト

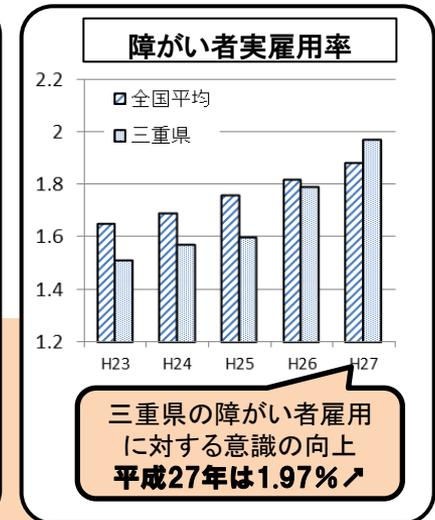
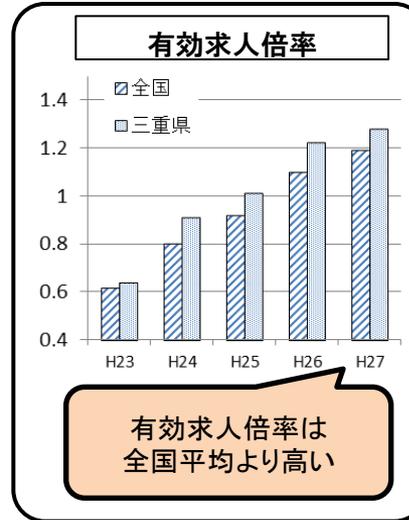
現状の数的把握

現状を把握しよう

プロジェクトでは「働くことに踏み出せない若者たち」を支援している、地域若者サポートステーション(愛称:サポステ)にご協力をお願いし、その実情を把握する事から始めました。



© 厚生労働省



有効求人倍率の上昇、障害者雇用への意識の向上！！

「就労困難者」という存在

就職が難しい若者たちには、様々な事情がありました。その中には、法的支援を受けられないために、就職や仕事の継続の面で大きな困難に直面している人たちがいました。

では 若年無業者の数は？

(総務省「就業構造基本調査」H24)

三重県内15歳以上34歳以下人口 (370,900人)			
有業者	家事	通学	無業者 15,800人

内 就職を希望しているが現在無職の若者は
11,700人！！

就労困難者の雇用創出プロジェクト

現状の質的把握

サポステの支援

サポステでは、「日常生活での礼儀」や「コミュニケーション能力の向上」などを目指し、利用者一人ひとりに応じた丁寧な支援がなされていました。それでも就職に結びつかない理由の一つに、企業との接点の少なさが挙げられたのです。

企業の声聴いてみよう

そこで、私たちは企業の現状を確認するため、他の調査機関が行ったアンケート調査を参考に、県内2社を訪問し、お話を伺うことにしました。

訪れたのは、サポステと連携し、チャレンジ体験をとおして若者を採用していただいた企業です。



お話を伺った企業
中部工業株式会社 様
株式会社太田製作所 様

プロジェクトでは、次の2点の状況にある企業は、サポステとの連携が可能ではないかと考えました。

『社会活動として障害者雇用に志を持つ企業』

『若者を雇用したいが集まらない企業』

就労困難者の雇用創出プロジェクト

課題は何か？

若者と企業の接点は意外と少ない

『就職したい若者』と『若者を採用したい企業』『若者の就職を助きたい企業』があるのに、なぜ就労困難な若者が存在するのか？その原因の一つに、「就労意識の差によるミスマッチ」が考えられるのではないだろうか？



～企業と若者が出会う場所～

まずは対話から始めよう

就活応援カフェとは、「企業と若者が、仕事に対する想いや、働くことへの考え方など、お互いを理解するため、話ができる場所を作ってみよう。その場所をみんなで支援しよう。そしてその輪を広げていこう」そんな想いが詰まった場所です。

企業と若者のマッチングの仕組み



就活応援カフェ

～企業と若者が出会う場所～

多くの方のご参加

2017年2月27日(月)13時～17時30分

1 開催記念式典

参加者:63名(来賓、登壇者、事務局等含む) 内、企業は9社(11名)

2 就活応援カフェ

参加者:68名(関係者、見学者、事務局等含む) 内、若者は23名

- おぼろタオル 株式会社(製造)
- 株式会社 太田製作所(製造)
- 中部工業 株式会社(請負・派遣)
- 虹の夢津(医療・福祉)
- ビューテック東海 株式会社 三重支店(清掃)
- ホテル ザ・グランコート津西(宿泊・飲食業)
- 有限会社 亀井園芸(苗栽培)

主催:公益財団法人三重県労働福祉協会・三重県地方自治研究センター

後援:三重県中小企業団体中央会 三重労働局 三重障害者職業センター 三重県自閉症協会

日本労働組合総連合会三重県連合会 全日本自治団体労働組合三重県本部 若者就労サポートステーション・みえ



企業とサポステの関係に変化がみられた

就活応援カフェ終了後、ご協力いただいた企業の皆様とサポステの連携がスムーズになったそうです。就労体験の受け入れから就労に結びついたケースも報告いただいています。



「就労意識調査」

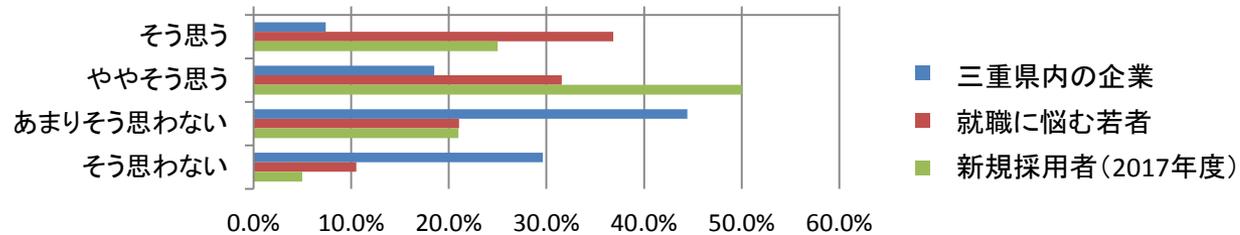
サポステ利用者、新規採用者、企業の意識の差

企業と若者の「働く」という意識に、どれほどの差があるのだろうか？

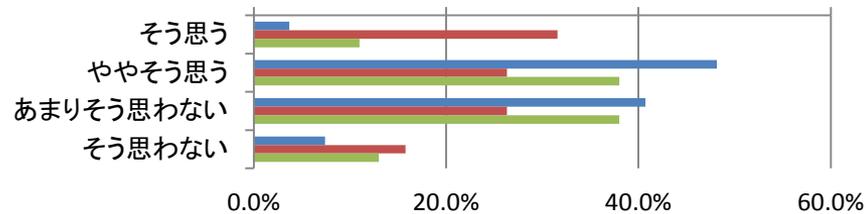
「就労意識調査」を実施

例えば・・・

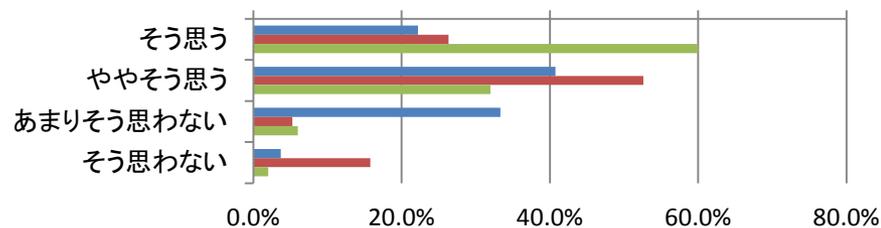
(1) 仕事を生きがいとしたい



(2) 面白い仕事であれば、収入が少なくても構わない



(3) どこでも通用する専門技術を身につけたい



就労困難者の雇用創出へ

オール三重の仕組み

これまでの調査結果を資料に、オール三重での取り組みを目指して

【企業】

～若者の採用に向けた動き～

- ◇多様な雇用形態を創る
- ◇ワークライフバランスへの取り組み
- ◇企業風土の改革

【自治体】

- ◇就労困難な若者採用企業への認定制度
- ◇幅広い連携(ネットワーク)の構築

【支援機関】

～若者のサポートを就労まで結ぶために～

- ◇ニートやひきこもりとなった若者の支援
- ◇企業向け若者サポートの相談窓口

必要なのは「雇用・就労システムの柔軟化」と「幅広いネットワークの構築」

それを **コーディネートする仕組み** が必要

就労困難者の雇用創出へ

事例から考える

事例からコーディネートの可能性を考える

【企業】

働き方改革

※サイボウズ・万協製薬

就労ビジネスの可能性

※ベネッセi

ミスマッチの事前防止

※求人サイト ミツカリ

【NPO法人・社団法人】

長期実践型インターンシップコーディネート

※NPO法人ETIC.(東京)・NPO法人JAE(大阪府)

NPO法人 G-net(岐阜県)

一般社団法人わくわくスイッチ(四日市市)

一般社団法人ソーシャルビジネス支援協会

【自治体】

東京都は、主婦・学生・高齢者等の様々な層による創業や新製品の開発、ソーシャルビジネス等への挑戦を促進するため、新たにクラウドファンディングを活用した資金調達支援を開始(平成29年10月2日から)

ソーシャルビジネスの可能性を模索

ソーシャルビジネス: 少子化高齢化、育児・教育問題、引きこもり・ニート支援、貧困問題、地域コミュニティ再開発など、解決されなければならない社会的課題をビジネスの手法で解決していく活動

企業の課題って？ 若者の悩みって？

企業と支援者と行政の対話

一つのセクターだけで悩まなくてもいい

私たちは、企業と若者が、もっと気軽に話せる場を考えてきました。それが「就活応援カフェ」です。若者たちは「働く」ということに正面から向き合い、企業はそんな若者たちを理解しようとしてきました。結果、今回ご協力いただいた企業とサポステの若者たちの距離は縮まったと報告いただいています。私たちは「理解できないこと」が最大の壁であったと気がつきました。

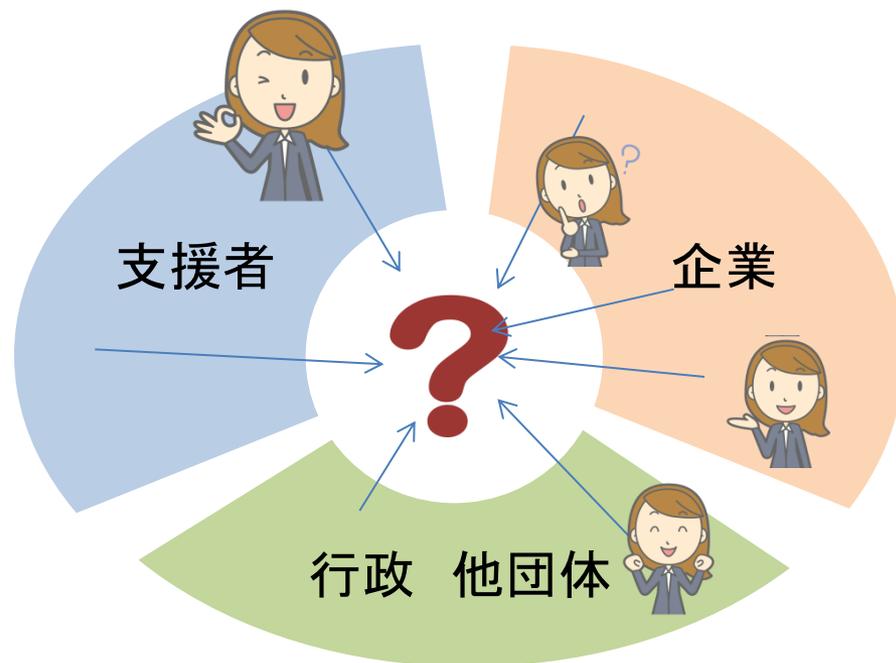
そこで次のステップです。

企業と支援者、行政が「理解する」ために課題と知恵を出しあう場

これからの時代、企業の課題と、就労困難な若者支援の課題を別々に考えても、答えにたどり着きません。今まで何度も何度も話し合ってきたはずですから。もっと多様な人たちが対話することで、新たなミライが見えてくる、そんな「空間」を用意する必要があります。

それが『 **就労ミライサミット** 』です。

どうか私たちに、誰もが働きやすい三重県のために、一人でも多くの皆さんのお知恵をお貸しください。



就労ミライサミット

意見交換ワークショップ

みえ 就労ミライサミット

【目的】

「就労困難者の雇用創出プロジェクト」で得た結果と、「就労意識調査」の結果を基に、多様なセクターと意見交換を行い、すべての若者がいきいきと働ける三重県を目指す。

【対象】

企業、自治体、若年無業者支援者 他

【日程】

12月11日(月) 14:00~17:00

- ・「就労困難者の雇用創出プロジェクト」及び「2016年度 就労意識調査」報告
- ・「若者就業サポートステーション・みえ」より報告
- ・意見交換・共有

【会場】

三重地方自治労働文化センター4階大会議室

【ファシリテーター】

埼玉大学 基盤教育研究センター 石阪 督規 教授

【定員】

60名

【主催】

三重県地方自治研究センター



12/11(月)14:00~